

(1) 議案第1号 音更町地域公共交通計画の令和6年度の進捗状況について【資料1・2】

- 施策の推進状況については、令和6年度に新たに取り組んだ内容を朱書きで追記している。【資料1】
- 数値目標の達成状況で、目的値に達しなかった、「No.2 コミュニティバスの満足度」については、令和7年7月からのルート・ダイヤ等見直しにより、利便性向上を図ることで満足度向上を目指すこととした。「No.5 町内運行路線バスの延べ利用者数」、「No.6 路線バスの満足度」については、十勝地域交通確保対策協議会や十勝地域公共交通計画推進協議会などで、路線最適化に向けた協議を今後も継続して行い、広域で利用促進を図ることで、利用者数増加や満足度向上を目指す。【資料2】

(2) 報告第1号 音更町コミュニティバスのルート・ダイヤ等見直し後の進捗状況について【資料3・4】

- 令和7年7月1日からの見直し後の進捗状況について、直近3か月の利用実績と、乗降調査（9月分）の結果を基に概要を報告する。

新たに導入した運転免許証返納者割引の利用者数は、しらかば号・すずらん号ともに増加傾向にあり、運賃が無料となるコミバスの日についても、7月は利用者数が少なかったものの、町公式LINEでの定期的な周知などにより、8月以降の利用者数は増加傾向にある。

新設したバス停の停留所ごとの乗降数については、資料4のとおりとなっており、マックスバリュ前、木野大通12丁目の利用者数が特に多いが、他の新設バス停も全て一定の利用者が見られる状況にある。

(3) 報告第2号 帯広圏広域公共交通事業について【資料5】

- 1市3町（帯広市・音更町・芽室町・幕別町）では、公共交通の利便性向上に向けた課題の共有を図りながら、担当者間での検討を始めていたところ、令和7年6月に、国土交通省の補助金を活用した公共交通調査事業である地域生活圏形成リーディング事業の採択を受けたことから、1市3町の地域生活圏における公共交通の現状把握と課題の洗い出しのため、人流データなどの各種データ等の収集・分析などを委託により行うこととなった。1市3町と北海道で構成する帯広圏都市計画協議会が事業主体となり、委託事業者については、公募型プロポーザル方式により選定し、株式会社ネクストモビリティと委託契約を締結した。

委託事業者が、各交通事業者の実績・オープンデータ、アンケート調査データの収集や、スマホアプリを利用した人流データの分析、医療機関等のヒアリングなどを行い、その結果を基に課題を抽出して、既存の交通サービスの改善や地域に即した交通

サービスの導入などの可能性を探りながら、来年度以降の方策案について、今後、帯広圏都市計画協議会を中心に関係機関で構成する帯広圏官民連携プラットフォーム（以下「官民PF」という。）で協議し、令和8年2月末までに報告書を取りまとめる予定。

なお、官民PFの関係機関には、本協議会委員では、十勝バス株式会社、北海道拓殖バス株式会社、音更タクシー有限会社、十勝地区バス協会、十勝地区ハイヤー協会、北海道十勝総合振興局地域創生部が参画しており、外部有識者として、国土交通省北海道運輸局帯広運輸支局が参画している。